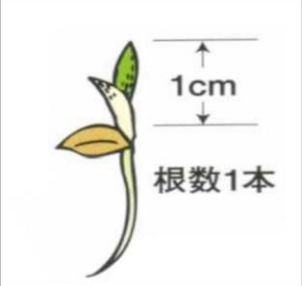
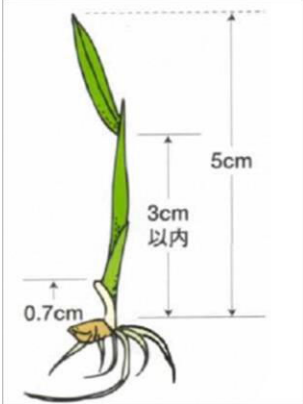
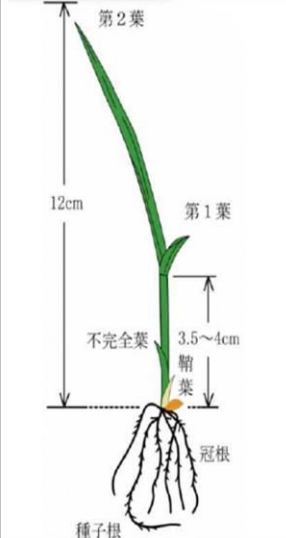


適期田植えと保温的水管理で初期生育の確保！

稚苗のハウス管理

十分な換気等こまめな温度管理で苗ヤケに注意しましょう!!

	出芽期		緑化期	硬化期
期間	加温出芽2日	無加温出芽5日	2~3日	12~14日
温度	28~30℃	昼28~30℃ 夜15℃以上	昼20~25℃	昼15~20℃ 夜10℃以上
		※ 温度計の高さは20~30cm 日中が高温になりやすい時期です。特に新しいビニールに張り替えたハウスは、温度が上がりやすいので十分注意し、 <b>高温障害(苗ヤケ)</b> に注意しましょう。		
被覆	芽の伸び過ぎに注意しましょう。	シルバーポリトウ#80とラブシートの二重被覆 被覆資材を育苗箱の下に巻き込みましょう。 ハウス内の温度が30℃以上にならないよう換気を行いましょう。	ラブシートの一重被覆 低温時は二重被覆で保温に努めましょう。 第1葉が展開したら硬化に移しましょう。	無被覆とするが夜間の霜が予想される場合は被覆しましょう。 換気を十分に行い、しっかり硬化させましょう。 田植5~7日前から夜間も換気を行いましょう。
水管理	出芽器の種類により灌水に注意しましょう。 ※蒸気式は少なめ	播種時に十分灌水しましょう。	過湿に注意！根張りが悪くなります。	硬化期前半は1日1回午前中に十分灌水しましょう。 低温が続く場合は、かん水を控え床土の保温に努めましょう。
	覆土のもち上がりが見られたらさっと灌水して覆土を沈下させ緑化にうつしましょう。		水分状態を確認し遅くとも午前10時までに灌水しましょう。	後半は1~2回十分灌水し夕方方はさけましょう。
生育目標	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;">                     近年、育苗期の高温により苗ヤケが多く発生しています。特に育苗期間初期のハウス内の急な温度上昇に十分注意しましょう!!                 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <b>【出芽終了時】</b>                        根数1本                 </div>	<div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <b>【緑化終了時】</b>   </div>	<div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <b>【硬化終了時】</b>   </div>	

## プール育苗について

- ・灌水や温度管理が省力できるとともにマット形成が良くなる利点があります。しかし、慣行に比べ苗が徒長気味に推移し、天候不良時の植え傷み等の発生に注意が必要です。

### ① 水管理

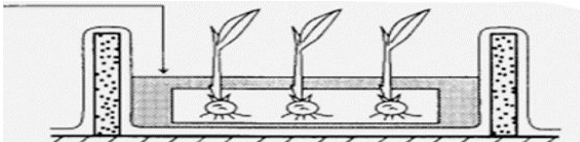
- ・入水開始は緑化終了時（1～1.2葉）とし、入水後は被覆資材を取りましょう。
- ・入水時に苗質向上のためアミグローも水と一緒に流し込みましょう。
- ・最初は苗箱の床土面まで水を入れましょう。

### ② 温度管理

- ・水温の上昇する日が続き、徒長が心配される場合は水の入替えをしましょう。
- ・緑化から入水前まではヤケ苗が発生しやすいので注意しましょう。
- ・入水後は原則としてハウスを開放し換気に努めましょう。但し、極端な低温が予想される場合はハウスを閉めましょう。

#### ▼入水時の苗姿(緑化終了時)

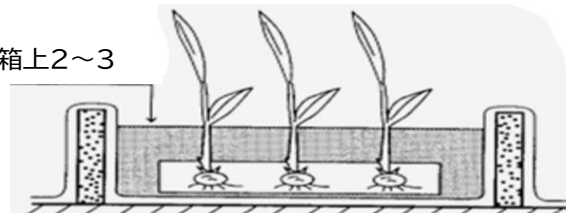
箱上1cmくらい



低温時は水温に注意し、10℃以下にならないようにしましょう。

#### ▼2葉期まで

箱上2～3



落水は移植3～5日前頃に行いましょう。ハウス内の温度が30℃以上にならないよう注意しましょう。

## 育苗追肥

### ◆苗質向上・初期活着促進のため積極的に使用しましょう！

資材名	規格	処理方法	使用時期	希釈	10a分(20～25枚)散布量	
					原液	水
ケルパック66ミニ	120ml	灌注	播種時～緑化期	1000倍	4 ml	4 l
M R - X	1l	灌注	緑化期～硬化期	500倍	20ml	10l
アミグロー	1l	灌注	緑化期～硬化期	500倍	20ml	10l
		プール育苗へ注入	入水時	—	1l規格で100枚分	
くみあい液肥	6kg	灌注	移植4日前～前日	100倍以上	100ml	10l
べんとう肥	5kg	粒剤散布	移植4日前～前日	—	1箱当り15～20g	

※弁当肥は活着を促進して本田初期生育を良好にするので特にプール育苗にはおすすめします。

密播(密苗)は慣行に比べマット形成が早く育苗期間も同等～短くなる反面、徒長やムレ苗が発生しやすく老化苗になりやすい特徴がありますので、十分な換気、適切なかん水、そして移植適期を逃さぬよう注意が必要です。

## 耕 耘

～本田の準備は万全に！深耕による作土層の確保～

- ◇ 水田の見回りを行い、点検補修（丁寧な畔塗り、モグラ・ネズミ穴、漏水箇所等の補修、農道・水路の補修など）確実に行いましょう。
- ◇ 保水力の確保と品質・収量安定の為、作土深 15cm を目標に深耕を心がけ、ゆっくり丁寧に耕耘しましょう。深耕により根域が広がることで夏場の干ばつにも強くなり、品質・収量の安定にもつながります。 ※ 作土層とは…耕耘した部分の層のこと
- ◇ 取水時は水尻を確認してから入水を始め、必要な水が入ったら確実に止水しましょう。また、用水が有効に利用されるよう計画的に春作業を実施しましょう。



## 代 か き

～水の量に注意して均平に仕上げましょう！～

- ◇ 代かき開始水位は田面の半分がかくれる程度にすることで均平が見えやすく、稲わらが浮きにくくなります。
- ◇ 代かき時期は田植えの2～3日前にすることで、雑草・藻類の発生を抑制します。（水を張っている時期が長いと、土の栄養が田面に溶けその養分でアオミドロや雑草が発生）
- ◇ 過度の代かきは水の浸透性の悪化をまねき、生育の障害となります。
- ◇ 代かきの水が多いと、ほ場の高低がみづらく、均平が確認できない。稲わらが浮いてながれてまうのでご注意ください。

## 田 植 え

～適期田植えと適正な水管理～

### 【田植え時期】

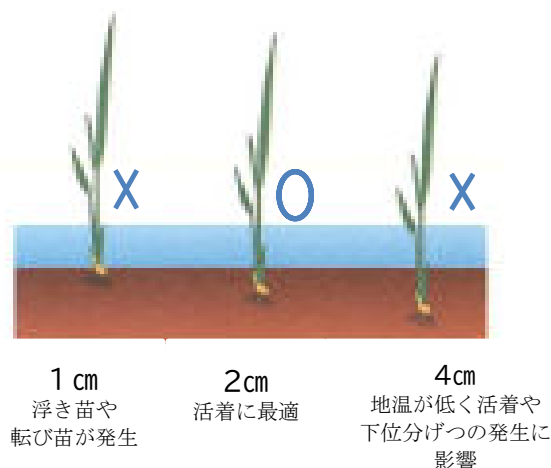
- ◇ 出穂時期の高温による品質低下を避ける為、5月10日以降の田植えを徹底しましょう。
- ◇ 田植え4～5日前に弁当肥を施用し活着・初期生育を促進しましょう。



コシヒカリの田植えを5月10日以降にすることにより、適温で登熟する8月5日以降の出穂期となり、登熟初期の過高温による品質低下を避ける確率が高くなります。リスク分散の観点も含め、移植時期の分散を合わせて進めましょう。

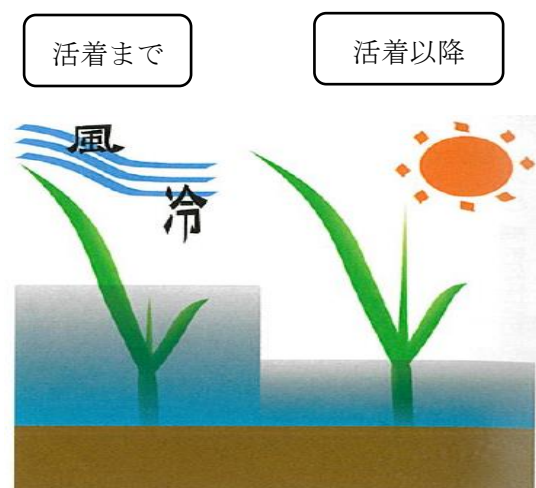
### 【植え付け本数・栽植密度・植え付け深さ】

- ◇ 植え付け本数は3～4本/株が目安です。植え付け本数が多くなると過繁茂となり、細莖化により倒伏や品質低下を招きます。
- ◇ 植え付け深さは2～3cmが目安です。深植えは分けつしにくくなり、浅植えは欠株や除草による薬害を受けやすくなります。
- ◇ 栽植密度は50～60株を基準とし、初期生育が確保しにくい地域では栽植密度を上げるなど地域の実情に合わせてみましょう。



### 【田植え後の水管理】

- ◇ 田植え後7～10日間は水深3～4cmで保温的水管理とし、強風時は一時的に深水にして風からイネを保護しましょう。
- ◇ 活着後は2～3cmのやや浅水とし、水温の上昇を図り分けつの発生を促しましょう。
- ◇ 水温・地温の上昇でワキが発生する為、水の更新や夜干しを行い早めにガス抜きを行いましょう。



除草剤を上手に使用しましょう。

### 【使用時期】

- ◇ 「移植後○日から」と記載されている場合は、イネが活着したことを確認してから散布しましょう。「移植後○日まで」「ノビエ0.0葉期まで」と記載されている場合は移植後日数を考慮し雑草の葉齢の進みをよく観察し散布が遅れないようにしましょう。

### 【使用上の注意点】

- ◇ 除草剤の種類に応じた散布時の水深を十分に確保しましょう。  
フロアブル剤やジャンボ剤等は深水にしましょう。
- ◇ 風が強い日や時間帯での散布は控えましょう。(風下に薬剤が偏ります。)
- ◇ 散布後4～5日間は十分な水深を保ち(処理層の形成のため)、散布後7日間は落水やかけ流しは行わないで下さい。
- ◇ 植え痛み等で活着が遅れている場合は薬害が生じやすいので、生育の回復を待ってから散布しましょう。薬害防止の為、異常低温時又は異常高温時には使用を避けましょう。異常高温時にはご注意下さい。